修士論文（要旨）
2019 年 1 月

母子のアタッチメントとその関連要因
―モバイル端末使用状況，インターネット依存傾向，育児ストレッサーに注目して―

指導　山口　一　教授

心理学研究科
臨床心理学専攻
217J4012
野口　三奈生

Master's Thesis
January 2019

Related Factors on Attachments between Mother and Child
:Focusing on Mobile Terminal Usage , Internet Dependency, and Child Care Stressors

Minao NOGUCHI
217J4012
Master's Program in Clinical Psychology
Graduate School of Psychology
J. F. Oberlin University
Thesis Supervisor : Hajime YAMAGUCHI

目次

第 1 章：問題の所在と背景 1
1.1　問題の所在 1
1.2　アタッチメント 2
1.3.　インターネット依存と育児におけるモバイル端末利用 3
1.4　育児ストレッサー 5
第 2 章：研究方法 5
2.1　目的 5
2.2　予想される結果と意義 5
第 3 章：研究方法 5
3.1　対象と方法 5
3.2　質問紙の構成 6
3.3　仮説 8
3.4　分析方法 8
第 4 章：結果 8
4.1　基本データ 8
4.2　因子分析の結果 11
4.3　母親，子どもの属性による，母子の接触時間,モバイル端末使用時間，インターネット依存傾向，母親の育児ストレッサー，母子間のアタッチメントの違い 15
4.4　相関分析の結果 16
4.5　子育てとインターネット依存合計得点との関連 19
4.6　モバイル端末使用の心配な点に関する自由記述 19
第 5 章：考察 21
5.1　基本データ 21
5.2　母親，子どもの属性による，子どもとの接触時間，モバイル端末使用時間，インターネット依存傾向，母親の育児ストレッサー，母子間のアタッチメントの違いについて 22
5.3　尺度間の相関 22
5.4　モバイル端末使用の心配な点に関する自由記述 23
5.5　総合考察 24
5.6　今後の課題 24
引用文献 I
資料

第 1 章：問題の所在と背景

1.　問題の所在

乳幼児のアタッチメントの形成には，母親の適切な応答が不可欠である。Bowlby(1969)のアタッチメント理論では，親が子どもを受容する態度や，子どもの欲求に対しどの程度敏感に応答するかという親の養育態度などから子どもの愛着が規定されると述べられている。核家族化が進み，育児経験や育児サポートが少ない中で，母親の育児不安がアタッチメントに関係しているという研究がある。一方で，近年の社会変化としてスマートフォンに代表されるモバイル端末の普及があり，多くの母子が日常生活の中で利用している。モバイル端末を含むインターネット利用に関するデータ(ベネッセ，2018. 橋元ら，2018. 内閣府，2017）はあるが，現段階ではこれらの使用と育児に関連した先行研究は少ない。福田ら（2018）によると，幼児にスマートフォンを使用しない親の方が抑うつ傾向は高いといわれる。また，山本（2015）は，保護者のインターネット依存傾向が，直接的にも間接的にも（自身の睡眠問題そして子どもの睡眠問題を介して）子どもの情緒的・行動的困難さに影響する可能性を示唆している。

第 2 章：研究方法

2.1　目的

問題の所在で述べられたことを踏まえ，本研究の目的は，母子間の相互作用によって築かれる母子のアタッチメントに，現在の育児環境として加わったモバイル端末の使用や母親のインターネット依存傾向，育児ストレッサーが関連するのかを明らかにすることである。

2.2　対象と方法

調査期間は 2018 年 2 月～3 月で，本研究の調査実施を承諾した関東地方の A 保健所における 3 歳児健診対象児の母親のうち了解が得られた 205 名の母親を対象に質問紙調査を行った。質問紙は，「母親の年齢」，「 母親と子どもの接触時間」，「母子それぞれのスマートフォン使用時間」，「インターネット依存度テスト」(Young, 1998），母親の育児ストレスを測定する「育児スレッサー尺度」(吉永ら，2006），母親の子どもへのアタッチメントを測定する「産褥期母親愛着尺度」(Nagata et al，2000）を用いた。なお，本研究は桜美林大学研究倫理委員会の承認を得ている（2018 年 2 月承認，承認番号 17036)。

第 3 章：結果と考察

3.1　結果

質問紙は 205 名に配布し，このうち 104 名から回答が得られた(回収率は 51%)，そのうち 100 名(有効解答率は 96.1%)を分析対象とした。母親の平均年齢 36.70 歳（SD4.99），母親のモバイル端末使用時間平日 2.18 時間（SD2.12），休日 2.00 時間（SD4.65），子どものモバイル端末使用時間平日 0.48 時間（SD0.63），休日 0.75 時間（SD9.75），「インターネット依存度テスト」の合計得点平均 26.30（SD6.79），「育児スレッサー尺度」の下位尺度である子育て困難感平均 1.94（SD0.57），サポート不足平均 1.64（SD0.66），育児不足と技術不足平均 1.61（SD0.60），育児による拘束平均 2.06（SD0.60），「産褥期母親愛

着尺度」の下位尺度である子どもへの愛情平均 3.08（SD0.52），子どもへの関心平均 3.67（SD0.45），子どもへの不安平均 2.29（SD0.49）であった。因子分析の結果，「育児ストレッサー尺度」は 4 因子，「産褥期母親愛着尺度」は 3 因子となった。相関分析の結果からは，モバイル端末の使用については，子どもの休日使用時間が長いほど，子どもへの愛情が有意に低い傾向が示唆された。また，インターネット依存傾向が強いほど，育児ストレッサ―尺度の子育て困難感得点や育児知識と技術不足得点や育児による拘束得点が有意に高く，産褥期母親愛着尺度の子どもへの不安得点が有意に高く，子どもへの関心は有意に低いことが示唆された。育児ストレスとアタッチメントに相関がみられた。また，自由記述には，スマートフォンなどを子どもに与えることに戸惑いを感じながらも使用させている母親の意見が複数あった。

3.2　考察

本研究において，　アタッチメントとモバイル端末使用には相関は見られなかった。しかし，　インターネット依存傾向と産褥期母親愛着尺度の下位項目である「子どもへの不安」とは正の弱い相関があった。一方，インターネット依存傾向と育児ストレッサー尺度の下位項目「子育て困難感」，「サポート不足」，「育児知識と技術不足」，「育児による拘束」の 4 因子とは全て正の弱い相関が見られ，インターネット依存と育児ストレッサーとの関連が示唆された。母親の育児ストレッサーを減らすことが，母親の育児への一助となり，母子間の相互作用に好影響を与えると考えられる。

（キーワード：アタッチメント，育児ストレッサー，スマートフォン使用）

参考文献

ベネッセ教育総合研究（2018）. 第二回乳幼児の親子のメディア活用調査 レポート [2018] https://berd.benesse.jp/jisedai/research/detail1.php?id=5268（2018.12.24 閲覧）

Bowlby, J.(1969) *Attachment and loss*, Vol1 Attachment, New York, BasicBooks.

福田 陽子・有吉 直美・植木 さゆり・木原 由美子・片瀬 高・末次 美子（2018).幼児へのスマートフォン使用による育児の実態と母親の抑うつ症状との関係 母性衛生, 59(2), 597-595.

Nagata M, Nagai Y, Sobajima H, Ando, T, Nishihide Y, Honjo S.（2000）Maternity blues and Attachment to children in mothers of full-term normal infants. *Acta Psychiatrica* Scandinavica, 101（3), 209-217

内閣府（2017). 低年齢層の子供のインターネット利用環境実態調査 https://www8.cao.go.jp/youth/youth-harm/chousa/net-jittai_child.html（2018.12.26 閲覧）

山本 隆一郎（2015). 未就学児の睡眠・情報通信機器使用の実態把握と早期介入に関する研究：保健指導マニュアルの作成, 厚生労働科学研究費補助金健やか次世代育成総合研究事業 平成 27 年度報告書

吉永 茂美・眞鍋 えみ子・瀬戸 正弘・上野 一郎（2006). 育児ストレッサー尺度の作成の試み.母子衛生, 47(2), 386-396.

Young, K（1998）*Caught in the Net: How to Recognize the Signs of Internet Addiction and a Winning Strategy for Recovery*, New York, John Wiley and Sons.